

～夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子～



つばさ

学年末号No. 14
令和7年3月26日
さいたま市立つばさ小学校

心を育て、心を磨け！

校長 浅野 博一

本日をもって、令和6年度の教育課程を修了いたします。

…この1年間、子どもたちはそれぞれの場において、自身の成長の歩みを、前に、そして前に進めてまいりました。その子ども一人ひとりの歩みに寄り添って、成長を支えるべく、子どもにとって学校の一番の居場所は「担任の懐」であることを肝に銘じ、教育愛に溢れる“人間教育の実践”に努力してまいりました。

「6年生を送る会」…1年生から5年生まで、通学班や縦割り活動、つばさっ子まつりや運動会などの諸行事でのリーダーシップに心からの感謝の思いを伝えました。

6年生は、学年合唱「大地のように」で、つばさ小で共に過ごした仲間との絆や思い出、これからの未来への希望や決意を歌い上げました。

「6年生を送る会」での子どもたちの姿に、こんなにも熱い想いで胸がいっぱいになるのは、なぜでしょうか。

それは、子どもたちの温かい心が、ことばや歌声や、踊りや合奏などに込められているからだと思います。



子どもたちには、この「温かい心」をいつまでも大切にしていってほしいと願っています。それでは、一体、心はどんな場面で育ち、どんな場面で磨かれていくのでしょうか。

6年合唱前に、「オープニングムービー」を上映しました。

映画「はたらく細胞」をイメージして、【学校で、みんなが笑顔で、心地良く生活できた】その背景には、どんな姿があったからなのか…を6年生たちが、生き生きと演じました。

困っている子がいたら、「どうしたの?」「大丈夫?」と仲間に寄り添う姿。集団の秩序を乱してしまう場面には、毅然として、注意し合う姿。

<みんなで生活していて、もめごとが起きても、仲間に寄り添ったり、注意し合ったり、こうした人たち(仲間)がいたから、つばさ小では、笑顔で心地良く生活できたのだね>と「オープニングムービー」でメッセージを伝えていました。

発達途上の子どもたちが大勢で集団生活をしていれば、当然、様々な壁が立ちはだかります。大人がすべて手を出して、解決してしまうのではなく、子どもたちだけの世界であっても、自分たちで乗り越えていく“自治の力”を身に付けていってほしいと願っています。勿論、大人が介入すべき時に、しっかりと指導し、その自治の力を育てていきます。

今日の修了式では、スライドで「吉田松陰」を紹介し、【新学期、新しい決意を固めて、登校してほしい】と子どもたちへ語りました。

吉田松陰は、わずか10歳で、藩校「明倫館」の教壇に上がり、11歳の時に、藩主の御前で講義をしました。

身分や階級にとらわれず誰でも学ぶことができる「松下村塾」では、【人生において最も基本となる大切なことは「志」を立てることである】と説き、明治維新の原動力となる大勢の人材を育て上げました。

アメリカのオープンAI最新モデル「o1 (オーワン)」に、今年の「大学入学共通テスト」を解かせたところ、得点率は91%になり、東京大学文科1類合格圏に入ったという。…人間は、どのような能力を伸ばしていくべきなのか。また、どのような役割を担うべきなのか、改めて、考えさせられます。こうした時代にあっても、「松下村塾」に負けない心意気で、つばさの教育を推進してまいります。

今年度も、温かいご理解、ご支援をありがとうございました。

おめでとうございます！！

【さいたま市児童生徒表彰】

【さいたま市体育優良児童表彰】

【青少年赤十字児童生徒表彰】

【埼玉県産業教育振興会児童生徒表彰】

【小学校英語劇発表会】

24時間子どもSOSダイヤル

0120-0-78310

(なやみいおう)

学校生活の様子



はばたきの会



感謝の会



6年生を送る会



吹奏楽部スプリングコンサート



6年生奉仕作業



6年生とのお別れ式